

年 号	出 来 事
	<p>5.17 浦郷尋常小学校児童保護者会代表田川平三郎より教授用大形オルガン壺台（価格二百八拾九円）を同校に寄付する。（『田浦町議会記録』）</p> <p>7. 1 田浦町立浦郷青年訓練所を浦郷尋常小学校内に設置、生徒数160名という（昭和3年度の生徒数は37名）。（『田浦町誌』）</p> <p>9.25 雷神社、県公報布告411号により神饌幣帛料を奉る指定神社となる。（『田浦町誌』）</p> <p>10. - 榎戸・山中社、再建され、消防組役付山田正次郎外15名が石灯笼一對を奉納する。（石灯笼刻銘）</p> <p>11.27 「明治憲法起草遺跡記念碑」の除幕式を挙げる（横須賀海軍航空隊内・夏島）。高松宮殿下、伊東巳代治、金子堅太郎、加藤寛治等が列席する。碑文は伊東巳代治伯の撰書。（『田浦町誌』）</p> <p>12. 4 皆ヶ作トンネル（追浜町1丁目・船越町6丁目間）が竣工する。（『横賀』）</p>
<p>昭和2 (1927)</p>	<p>3. 4 米国寄贈の人形伝達式が県庁で行われ、浦郷尋常小学校も受領する。（『市教育史』）</p> <p>5. - 「烏帽子巖之跡」碑が旧地点に建立される（花崗岩、高さ93、幅36.5センチ）。（『田浦町誌』）</p> <p>5. - 官修墓地（西南戦争戦病者墓地）荒廃のため改修を加える。（『田浦町誌』）</p> <p>6. - 国道31号（現・16号線）、浦郷本浦より長浦田ノ浦まで竣工する。（『田浦町誌』）</p> <p>8. 1 浦郷字細浦地先の公有水面の埋立て完成により編入する。（『県公報』）</p> <p>11.17 深浦地先の公有水面埋立618坪を議決する。（『田浦町議会記録』）</p> <p>11.17 田浦町は日向・榎戸地先の公有水面410坪の埋立案（共同荷揚場）を知事に提出。（『田浦町議会記録』）</p> <p>12.20 田浦町議会は①浦郷字前田に電車停留所特設費（追浜駅設置）として、3,000円を湘南電気鉄道(株)に寄付すること②本町浦郷字日向・榎戸地先公有水面410坪7合埋立及び護岸工事費として5,000円の支出を議決する。（『田浦町議会歳入歳出追加予算案』）</p>

年 号	出 来 事
	<p>12. ー 井口辰之助（横須賀の人）、浦郷字神応（現・追浜東町）の蓮田や畑を埋立て、住宅地を造成する。（『田浦町誌』）</p> <p>この年、①浦郷（本浦・鉦切・深浦・榎戸・日向）の戸数1,172という。 ②浦郷尋常小学校の在籍児童数961名（男483、女478）。（『浦小沿革』）</p>
<p>昭和3 (1928)</p>	<p>2.27 田浦町議会は小学校設備の財源に充てるため、本年4月より昭和4年3月迄尋常科児童一人一ヶ月金二十銭、高等科児童一人金八十銭を徴収することを議決する。（「田浦町議会記録」）</p> <p>2.27 軍事上必要につき浦郷字亀島（80坪、単価20円）を海軍省に売却する議案を提出。（『田浦町議会記録』）</p> <p>3.22 浦郷字郷戸地先の公有水面606坪の埋立を議決する。（「田浦町議会記録」）</p> <p>3. ー 深浦湾内の亀島は海軍に買い上げられ、亀島社の社殿は大国主社に移転する。売却代金は1,596円（80坪）であった。亀島の旧姿は海軍航空廠を設置するための埋立てで消滅した。（『田浦町誌』）</p> <p>4.27 蒲谷惣七他出願の浦郷字東鉦切地先公有水面の埋立て262坪を許可する。（「田浦町議会記録」）</p> <p>4.27 蒲谷又左衛門他出願の浦郷字西鉦切地先公有水面の埋立て485坪を許可する。（『田浦町議会記録』）</p> <p>4. ー 日向の関東興信銀行浦郷代理店は戸塚銀行と業務併合により廃店する。（『田浦町誌』）</p> <p>5.30 御大典記念事業として浦郷尋常小学校の御真影奉安殿が落成する。工費2,500円。（『浦小沿革』）</p> <p>5. ー 合名会社杉山商店（浦郷336、杉山剛平）が設立される。（『商工11』）</p> <p>6.30 浦郷字本浦252番地の従来防波堤（官有地、1反2畝15歩）として維持管理してきたものが、同地先海面埋立の結果存置の必要なきに至ったため、無償を以って払下げ方を其の筋に出願することを決議する。（「田浦町議会記録」）</p> <p>6.30 浦郷字郷戸地先公有水面2,022平方メートルを田浦町の区域として編入する。（「田浦町議会記録」）</p> <p>6.30 浦郷字亀島及び深浦地先の公有水面埋立618坪、追認許可される。（「田浦町議会記録」）</p>

年 号	出 来 事
	<p>7.12 平田八重、「首斬観音碑」(現・追浜町1丁目)を建立する。題字松竹庵梅月書。(刻銘碑文)</p> <p>7.13 金沢町野島魚業組合陳情中の海軍航空隊西北海面に海苔採取場設置の件、条件付きで海軍から許可される。(『横買』)</p> <p>11. 2 浦郷尋常小学校児童保護者は御真影奉安殿(1棟、2千3百円)を田浦町に寄付する。(「田浦町議会記録」)</p> <p>11.10 田浦町の御大典記念事業で80歳以上全員に天杯授与。浦郷地区では90歳以上女1名、80歳以上男7名、女13名、計21名。(『田浦町誌』)</p> <p>12. 一 御大典(昭和天皇即位)奉祝記念事業として、『田浦町誌』(孔版)が刊行される。三浦郡教育会第一部会編、田中作造・高橋真太監修する。</p> <p>この年、①国道31号線、浦郷から逸見まで7つのトンネルで結ばれ開通する。(昭和27年道路法改正によって、小川町までを国道16号と改称)。(『市史50』)</p> <p>②広部合名会社(東京)による天神山下公有水面埋立工事が目下進行中で、完成すれば3万6,000坪の住宅地が造成される。(『田浦町誌』)</p> <p>③雷神社で国道に続く参道を築造する。(『田浦町誌』)</p> <p>④浦郷地区の医院は榎戸の鳥海医院、村瀬医院のみで、本浦・鉦切・深浦・日向には医院がゼロであった。(『田浦町誌』)</p> <p>⑤追浜堂書店が創業する(現在の追浜町3丁目2番地)。(聞取調査)</p> <p>⑥魚金本店が創業する(現在の駅前銀座通り・さかいや店舗地)。(聞取調査)</p> <p>⑦若葉花園(追浜町2丁目)の前身である高橋商店が創業する。(聞取調査)</p> <p>⑧浦郷尋常小学校の在籍児童数962人とあり。(『浦小沿革』)</p> <p>⑨浦郷青年訓練所の本年入所生徒21名、卒業生徒5名で、現在入所生徒数21名という。(『田浦町事務報告書』)</p> <p>⑩浦郷字日向・榎戸地先公有水面410坪を埋立てる。工費予算5000円。(田浦町議会記録)</p>
<p>昭和4 (1929)</p>	<p>3.31 浦郷尋常小学校に付設町立浦郷青年訓練所を設置する。(『浦小沿革』)</p> <p>4. 一 相模運輸(株)造船部(藤原英三郎、浦郷4954番地)が設立される。(『新市史』資近現Ⅲ)</p> <p>5.19 横須賀海軍航空隊(追浜)でサイパン～横須賀往復飛行実施。22日同島ガラパンに着水、25日横須賀(追浜)に帰還。(『横買』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>10. - 雷神社に狛犬・石灯笼が氏子によって、奉納される。(「刻銘」)</p> <p>12. - 浦郷尋常小学校、二階建校舎1棟(6教室)を、新築する。在籍児童数996人という。(『浦小沿革』)</p> <p>この年、広部合名会社(東京)、天神山下の水面を埋立て、3万6,000坪の住宅地を完成させる。(『横賀』)</p>
<p>昭和5 (1930)</p>	<p>4. 1 湘南電気鉄道(株)、黄金町・浦賀間の営業が開始され、追浜駅が設置される。当初は駅員無配置駅であったが、同6月11日より配置。(『京急80』)</p> <p>6. 1 横須賀海軍航空隊に飛行予科練習部を設置、第1期生79名の教育を開始する(同14年3月に茨城県霞が浦に移転する)。(『新市史』別軍事)</p> <p>6. - 渋谷製綿工場(渋谷巳代治、浦郷1476番地)が設立される。(『新市史』資近現Ⅲ)</p> <p>7.30 夏島で漁夫が拾った練習用の爆弾が暴発し、2人が重傷を負う。(『横賀』)</p> <p>9.23 榎戸・能永寺で政友会の演説会を開催、弁士に植原悦二郎、大井鉄丸、加藤小兵衛他。(『横賀』)</p> <p>11.29 日向・光龍寺が全焼する。(『横賀』)</p> <p>11. - 本浦会館(追浜本町1丁目)が完成、同時に火の見櫓の設置と消防用蒸気ポンプ1台を購入。一般寄付金五千五百円により賄う。(『追浜本町一部会 名鑑』)</p> <p>この年、①八百竹商店(沼田商店、追浜町3丁目)が創業する。(聞取調査) ②浦郷地区の人口7,589人という(国勢調査) ③榎戸・鳥海医院長鳥海順、浦郷1241番地(現在地)の約600坪を購入する。(仮題『自伝青山松次』)</p>
<p>昭和6 (1931)</p>	<p>2.20 横須賀海軍航空隊で殉難飛行将士の葬儀が行われる。(『横須賀市事務報告』)</p> <p>3. 8 深浦にできる航空廠敷地買収問題は海軍と地主の価格が折り合わず、その差額1万円を町で負担するよう地主側が要求、町ではその半額の5,000円の支出を決める。(『横賀』)</p> <p>3.18 田浦町は軟式野球場を造るべく、湘南電鉄追浜駅裏に2,500坪の土地を買収、山林・田畑を整地してグラウンドを設けることにする。(『横賀』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>4. 3 横須賀海軍航空隊（追浜）では、一般市民に開放する恒例の汐干狩を19日（日）に開催する。（『横賀』）</p> <p>4.15 海軍航空廠建設の敷地買収問題は紛糾したが、宅地3,284坪、畑2,673坪、田7,104坪、山林105坪、池759坪の合計1万3,925坪で、価格10万400余円（家30戸の移転料を含む）で妥結。海軍が10万円を支出したため、町の負担は少額で済む。（『横賀』）</p> <p>4.19 全田浦が慶応倶楽部を招いて、天神グラウンドで軟式野球試合を行う。（『横賀』）</p> <p>4. 一 榎戸・正観寺、山門を建立する。（『正観寺誌』）</p> <p>4. 一 浦郷尋常小学校に浦郷青年訓練所を設置する。（『浦小沿革』）</p> <p>5. 9 学習院生徒等500名、追浜の海軍航空隊で空中戦闘を見学する。（『横賀』）</p> <p>9. 一 築島跡（現・追浜町3丁目）に「雷神社古址」碑を建立する。望月勤作の捐資による。（碑文銘）</p> <p>9.26 夜来の豪雨で、床上浸水等の被害あり。（『逗子年表』）</p> <p>11. 一 有限会社湘南堂（現・追浜町3丁目、佐藤順次）が創業する。（『商工36』）</p> <p>この年、①横須賀海軍航空隊本部庁舎が竣工する。設計は建築家三輪幸左衛門。（「三輪幸左衛門履歴」）②榎戸・吉倉間渡船営業の吉倉運輸（株）が、廃業する。（『市史50』）③望月本店（望月貞吉、現・追浜本町）が創業する。（『此処』）④亀井自転車店（現・追浜町2丁目、現亀井輪業）が創業する。⑤勝野金物店（追浜町3丁目）が開業する（聞取調査）</p>
<p>昭和7 (1932)</p>	<p>3. 一 本浦巡查駐在所を追浜巡查派出所（浦郷1231番地）に改称する。（『田浦警察署史』）</p> <p>4. 1 「海軍航空廠令」の発布により、深浦に海軍航空廠が開設される。7月7日開廠式を挙げる。（『新市史』別軍）</p> <p>4. 1 追浜郵便局（現・追浜町3丁目・田川貞二）が3等局として開設される。（『商工案内』11）</p> <p>6. 一 日向・八王子社が再建される。（棟札銘）</p> <p>7.15 浦郷尋常小学校に少年赤十字団（尋常5・6年生）が設立される。（『浦小沿革』）</p>

年 号	出 来 事
	<p>10.9 海軍共済組合横須賀購買所浦郷支所が深浦に開所する。(『工廠沿革』続)</p> <p>10.20 横須賀海軍共済組合病院浦郷分院が新築(51坪)され、診療を開始する。現在の横浜南共済病院の前身。(『共済病80』)</p> <p>11.14 台風の暴風雨により被害あり。(『県災害誌』)</p> <p>12.5 田浦町会で航空廠道路の梅田トンネル迂回案を採択する。(『横買』)</p> <p>12.15 夏島断崖切り崩し工事中、崩壊のため土工3人が死亡する。(『横買』)</p> <p>この年、①浦郷少年赤十字団が結成される。(浦小沿革) ②浦郷地区の戸数2,308、人口9,585人。(『横須賀市史稿』)</p>
<p>昭和8 (1933)</p>	<p>1. - 田浦青物市場株式会社(浦郷1613、岡田八郎)が設立される。(『商工案内』11)</p> <p>1. - 夫婦橋(追浜本町1丁目)が竣工する。(親柱銘)</p> <p>1.28 海軍航空隊で講演、展覧、見学の会が開催され、大井市長参列する。(『市事務報告』)</p> <p>2.6 田浦町合併問題で横須賀市側が田浦町の条件を一部修正のうえ承諾し合併が決定する。(『横買』)</p> <p>4.1 湘南電鉄(株)、浦賀・品川間の直通運転が開始される。(『京急80』)</p> <p>4.1 田浦町が横須賀市に合併し、浦郷は横須賀市浦郷となる。横須賀市の人口15万825人。(『県告示』)</p> <p>4.1 浦郷尋常小学校は横須賀市立浦郷尋常小学校となり、尋常科23学級、在籍児童数1,407人となる。(『浦小沿革』)</p> <p>4.1 浦郷火葬場(現・追浜東町)、町営から横須賀市に移管される。(『横買』)</p> <p>5.9 官修墓地(西南戦争戦病死者墓地)が破壊・掘り返される。(『横買』)</p> <p>5.10 鳥海病院、日向より浦郷1241番地(現・追浜町3丁目7番地)に新築移転し、開院する。建坪136坪という。(仮題『自伝青山松次』)</p> <p>6. - 向坂トンネル(追浜南町1丁目・鷹取1丁目間)が竣工する。(『市史50』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>8. 9 浦郷小学校で防空演習における小学校児童火災避難救護演習が実施される。(『市事務報告』)</p> <p>8. - 榎戸トンネル(浦郷町2丁目・浦郷町3丁目間)が竣工する。(『市史50』)</p> <p>9. 6 「京浜・湘南沿線案内」が発行され、両電鉄沿線の観光案内を図絵する。追浜駅では追浜遊園地、鷹取山、追浜飛行場、憲法遺蹟が載る。</p> <p>9. - 合資会社三升屋商店(浦郷5295、相原猪三郎)が設立される。(『商工案内』11)</p> <p>10.18 深浦の官修墓地(現・浦郷町3丁目)に西南戦争戦病者慰霊の「義勇千秋義烈萬古」碑を建立する。撰文北村包直。相陽時事新聞老兵会建立。(『横買』)</p> <p>10. - 日向トンネル(浦郷町1丁目・船越町7丁目間)が竣工する。(『市史50』)</p> <p>11.10 (株)湘南丸金商会(田川誠治、浦郷町)を設立する(湘南商事の前身)。(『横経済史』)</p> <p>この年、①海軍航空廠庁舎が清水組によって建設完成する(建築面積約1571平方尺)。②浦郷字山ノ脇地先の海面1,178坪を埋め立てる。(『市史50』)③浦郷地区の戸数2,523、人口男6,333、女5,425、計1万1,758人。④浦郷小学校の在籍児童数1,407人。(『浦小沿革』)</p>
<p>昭和9 (1934)</p>	<p>1.27 浦郷塵芥焼却所(浦郷2226)を6,700円で改築する。のち昭和52年3月で廃止。(『市史50』)</p> <p>3. 3 浦郷尋常小学校で4年生用の『郷土地理読本』を刊行。「天神山」の解説で、三浦氏と落雁寺氏の合戦を史実として記す。</p> <p>3.31 浦郷尋常小学校付設の青年訓練所を廃止する。(『浦小沿革』)</p> <p>4. - 海軍航空廠見習職工教習所(深浦)が設立される。(『商工案内』11)</p> <p>5.17 浦郷尋常小学校の講堂を新築、工費16,800余円という。(『浦小沿革』)</p> <p>7. 5 横須賀・龍本寺に横須賀海軍航空隊の「航空殉職将士追悼之碑」が建立される。相陽時事新聞社建立。(碑文銘)</p> <p>9.12 市営墓地計画で浦郷字平六ヶ入2,700坪が選定され、同12月2日測量が終了する。のち、計画変更となる。(『新市史』資近現Ⅲ)</p>

年 号	出 来 事
	<p>9.21 室戸台風による、被害あり。(『市史50』)</p> <p>この年、①浦郷字山ノ脇地先の公有水面3,350坪、鉾切地先公有水面1,598坪及び榎戸地先公有水面481坪を各埋め立てる。(『市史50』) ②この頃、追浜駅裏山にイチゴ園が完成、営業を開始する。(聞取調査) ③浦郷地区の戸数2,990、人口男7,497、女6,486、計1万3,983人。(『市統計書』)</p>
<p>昭和10 (1935)</p>	<p>1. - 合資会社蒲谷履物店(本浦)が創業する(靴のしげるの前身)。(『横経済史』)</p> <p>3. 5 横須賀婦人会浦郷支部、浦郷尋常小学校で発会式を挙げる。(『横質』)</p> <p>3.20 日向巡查駐在所を浦郷4349番地(現浦郷町2丁目66番地)に新築移転、榎戸巡查駐在所とする。(『田浦警察署史』)</p> <p>4. 1 瑞穂保育園(浦郷2582・並木通り沿い)が設立される。(『県社会』)</p> <p>7. 6 横須賀一帯の豪雨で、浸水家屋が続出する。(『横質』)</p> <p>9.25 横須賀海軍航空隊より横須賀鎮守府に追浜神社建立に付き、土地(304平方㍍)使用の許可願が提出される。(『横空第168号出願書写』)</p> <p>10.12 横須賀海軍航空隊で追浜神社の鎮座祭を行う。(『市公報』)</p> <p>11.18 横須賀海軍航空隊構内に追浜神社創設のための土地使用の件、認可される。(官房第4870号認可書写)</p> <p>この年、①浦郷字天神地先の公有水面1,875坪を埋め立てる。(『市史50』) ②浦郷地区の戸数3,469、人口男8,644、女7,467、計1万6,111人という。(『市統計書』)</p>
<p>昭和11 (1936)</p>	<p>4. 1 浦郷尋常小学校に高等科を付設、浦郷尋常高等小学校と改称、校舎(6教室)を増築する。在籍児童数2,051人という。(『浦小沿革』)</p> <p>6. 1 浦郷に設けられている行政区のうち本浦区を追浜区と改称する。(『市史50』)</p> <p>10.31 深浦・海軍航空廠の爆発火災事故で、工事用火薬取扱いの10名が死傷する。(『横質』)</p> <p>10.11 浦郷郵便局(深浦)が開設される。(聞取調査)</p>

年 号	出 来 事
	この年、浦郷字天神地先の公有水面9,542坪が埋め立てられる。(『市史50』)
昭和12 (1937)	<p>4. ー 浦郷尋常高等小学校に海軍より250馬力艦上戦闘機が寄贈され、同6月8日校庭内の格納庫で命名式があり、天神号と名付けられた。(『浦小沿革』)</p> <p>5. ー 本浦・正光寺の本堂が再建され、落慶入仏の法要を挙げる。(『正観寺誌』)</p> <p>7. 3 相模運輸造船部(浦郷)で湘南丸進水式を挙げる、鈴木齊次郎市長列席する。(『市事務報告』)</p> <p>9. ー 向坂土地区画整理事業が組合施行で行われる(14年3月迄)。現在の鷹取町1丁目の一部で、面積1万3,712平方^尺。横須賀市における土地区画整理事業の第1号である。(『市史80』下)</p> <p>11. 2 「海軍航空発祥之地」の碑が、横須賀海軍航空隊によって最初の格納庫跡地に建てられる。碑文の揮毫は金子養三少将である。現在、貝山緑地に移される。(碑文銘)</p> <p>12.26 横須賀二業組合田浦支部加盟の浦郷地区の料理店は、叶家(榎戸)、亀島屋(榎戸)、魚忠(深浦)、追浜園(本浦)、富士ノ荘(本浦)の5店である。(『横須賀二業組合員名簿』)</p> <p>この年、①本浦・自得寺本堂が建立される。(『新市史』別文) ②浦郷小学校が市内小学校少年野球大会(三笠球場・日の出町)で優勝する。(『浦郷小記念誌』)</p>
昭和13 (1938)	<p>5. ー 雷神社の石段を1,100円で改修する。</p> <p>6.29 連日の豪雨により家屋倒壊等の被害あり。(『横賀』)</p> <p>7. ー 森重歯科医院、日向から本浦(追浜東町)に移転して開業する。(『ふるさと浦郷』)</p> <p>8.11 天皇陛下、深浦の海軍航空廠に行幸、作業状況を天覧する。この時、特23号国道を改修する。(『昭和天皇実録』『横須賀市事務報告』)</p> <p>10. 1 浦郷字本浦(現在の追浜本町・追浜南町・追浜東町・追浜町・鷹取町の地域)の戸数3,051という。</p> <p>10. 7 浦郷・本浦会館で県商工経営相談所による講演会が開かれる。(『市公報』)</p>

年 号	出 来 事
	11. ー 天皇陛下行幸を記念して、航空廠庁舎敷地に「行幸碑」を建立する。 (銅板刻銘碑文)
昭和14 (1939)	<p>1.21 浦郷小学校講堂で支那事変戦死者の合同市葬が行われる。(『横須賀市事務報告』『市史50』)</p> <p>3.31 飛行予科練習生(予科練)を横須賀航空隊から霞ヶ浦航空隊(茨城県阿見町)に移す。(『新市史』別軍)</p> <p>4. 1 市立浦郷青年学校を浦郷尋常高等小学校に併置する。小学校の在籍児童数2,719人(37学級)という。(『浦小沿革』)</p> <p>4. 5 深浦・海軍航空廠は海軍航空技術廠(略称「空技廠」と改称される。(『官報』)</p> <p>6.12 横須賀海軍共済組合病院浦郷分院を閉鎖し、同病院追浜分院を新たに六浦(六浦町506番地)に新設開院する。(『共済病80』)</p> <p>6. ー 信濃屋製パンが浦郷小学校下で創業(北原治夫、北原製パン所の前身、現在追浜本町)する。(聞取調査)</p> <p>7.31 追浜映画劇場の建設が始まる。延坪数119坪で、定員446名。請負は花崎組、工費は3万円で、9月中の落成という。(『横買』)</p> <p>8. ー 平六トンネル(追浜町2丁目・追浜東町2丁目間)が竣工する。(『追浜二丁目平和会のあゆみ』)</p> <p>8.20 夜来の集中豪雨により家屋浸水被害あり。(『横買』)</p> <p>この年、瑞穂保育園で救世軍追浜分隊の講演会が開かれる。(『救世軍日誌』)</p>
昭和15 (1940)	<p>6. ー 浦郷尋常高等小学校の児童増加により、新たに分校校舎を現・鷹取町に建設着手する。この年、在籍児童数2,788人となり、最多児童数となる。(『浦小沿革』)</p> <p>12.15 伊香輪一虎著『追浜とその付近』(孔版)が発行される。</p> <p>12. ー 「横須賀市町内会整備要綱」が定められ、北郷聯合町内会のうち現追浜地区の町内会は、追浜第一、追浜第二、追浜第四、追浜第五、追浜第六、追浜第七、追浜第八、本追浜、深浦、榎戸、日向の11町内会となる。(『市史50』)</p> <p>12. ー この月、浦郷尋常高等小学校分校(現・鷹取町2-95)が完成。第2期の増築等により敷地3,341坪、校舎771坪、教室18、経費18万円であった。(『市教育史』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>この年、①紀元二千六百年の祭典が各地で挙行される。②深浦・航空技術廠浦郷物資配給所が開設される。『新市史』資近現Ⅲ ③浦郷地区の人口2万7,645人という。(国勢調査)</p>
<p>昭和16 (1941)</p>	<p>3. 1 「国民学校令」が公布され、4月より横須賀市浦郷国民学校となる。 (『浦小沿革』)</p> <p>4. 1 追浜国民学校が開校される。浦郷小から964名、船越小から159名、児童合計1,123名で発足。(『追浜小学校記念誌』)</p> <p>4. 1 海軍航空技術廠支廠が六浦、釜利谷町にまたがって設置される。 (『新市史』別軍)</p> <p>6. 9 皇太后が葉山御用邸から浦郷の海軍航空隊・海軍航空技術廠をご視察される。(『市公報』)</p> <p>4.21 横須賀海軍共済組合病院追浜分院を追浜海軍共済組合病院として分離独立する。(『共済病80』) なお、昭和20年10月に財団法人共済協会追浜共済病院となり、同40年4月に横浜南共済病院と改称して現在に至る。</p> <p>7.20 浦郷海洋少年団が設立される。(『浦小沿革』)</p> <p>9.21 浦郷国民学校、県下児童相撲大会に山崎国民学校とともに横須賀市代表として出場する。(『浦郷小学校記念誌』『市事務報告』)</p> <p>11. 1 京浜電鉄(株)、湘南電鉄(株)、湘南半島自動車(株)が合成合併、京浜電気鉄道(株)となる。(『京急80』)</p> <p>12. 8 米英両国に宣戦布告する。</p> <p>この年、①航空技術廠水上機試験水槽2基築造のため独園寺墓地が強制撤去され、このため墓地を南側(現在の山上墓地)に移転新設する。(『地区覚書』) ②この頃から鉾切地区の建物強制疎開が始まるという。(聞取調査)</p>
<p>昭和17 (1942)</p>	<p>3. ー 追浜東郵便局(追浜町)が開設されるが、昭和24年頃に追浜東町(現地)に移転、本浦郵便局と改称して営業する。(聞取調査)</p> <p>3. ー 市内各小・中学校の銅像、鉄柵などが供出される。(『横経済史』)</p> <p>4. ー 銭湯・郷の湯(岩崎要松、追浜町2丁目)が営業を始める。(『追浜本町一部会 名鑑』)</p> <p>5. 1 京浜電気鉄道(株)が東京横浜電鉄(株)と合併、東京急行電鉄(株)となる。(『京急80』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>5. ー 横須賀憲兵分隊の田浦憲兵分遣隊を浦郷（現・白鳩幼稚園地）に設置する。同20年3月には憲兵分隊となる。（『新市史』別軍）</p> <p>11. 1 横須賀海軍航空隊構内（夏島町）に追浜海軍航空隊が開隊され、整備術教育を担当する（昭和19年12月20日解隊）。（『新市史』別軍事）</p> <p>11.10 田浦・比与宇火薬庫が爆発。梅田・日向地区で家屋・人員に被害がでる。（『留守中日記』）</p> <p>11.19 榎戸・正観寺半鐘（宝永3年鑄造）が金属回収令により供出される。（『正観寺誌』）</p>
<p>昭和18 (1943)</p>	<p>2.10 鉦切女子青年団約40名、モンペ・タスキで戦勝祈願の夜間行軍を挙行する。（『神新』）</p> <p>2.21 榎戸・日の出館で出征家族慰安のため、子供演芸会が開催される。（『留守中日記』）</p> <p>2. ー 金属回収令により、独園寺半鐘が供出される。（後年、熔解されず返戻される。）（『地区覚書』）</p> <p>3. 6 浦郷・船越両青年学校を統合し、船越商工青年学校となる。（『市教育史』）</p> <p>3. ー 横須賀市及び大政翼賛会横須賀支部から市民に「隣組員の信条（こころがけ）」が配布される。（原本写）</p> <p>5. ー 日向・八王子社は軍事上の要請により、日向トンネル付近の山腹に遷宮する。（『回想』）</p> <p>9.10 浦郷に市立追浜戦時特設託児所（良心寺内）を開設する。収容人員170人。（『市史50』）</p> <p>12. ー 榎戸湾周辺の民家が建物強制疎開で取り壊され、この時江戸時代から続いた料理屋兼旅館の叶屋も解体撤去される。（『横浜市歴史博物館紀要』第1号）</p> <p>この年、本浦・良心寺梵鐘が「金属回収令」によって供出される。（『良心寺しおり』）</p>
<p>昭和19 (1944)</p>	<p>2. ー この頃、日向・榎戸地区で引き続き民家の強制疎開が行われる。（聞取調査）</p> <p>3. 1 市域の国民学校で昼食の給食が実施される。（『横経済史』）</p>

年 号	出 来 事
	<p>7.15 海軍設営隊による緊急戦備施設（防空施設）として「野島隧道」と「夏島隧道」の急速設営が行われる。計画によると夏島には「零戦」40機分の大型飛行機隧道の建設であった。（『新市史』別軍）</p> <p>8.16 学童疎開のため浦郷国民学校の児童345名が、高座郡海老名町へ出発する。（『市教育史』）</p> <p>8.20 学童疎開のため追浜国民学校の児童232名が、高座郡小出村へ出発する。（『市教育史』）</p> <p>8. — 浦郷小学校校舎が空技廠に動員された仙台・宮城高女生徒たちや海軍高射砲隊々員などの宿舎として終戦まで使用される。（『浦小沿革』）</p> <p>11.10 相模運輸倉庫(株)より分離独立して、相模造船鉄工(株)が設立される（浦郷町1丁目）。（『工業30』）</p> <p>12. — 日向山防空砲台（浦郷町2丁目）が設置される。装備は7.5cm連装高角砲2基、25mm連装機銃2基である。この砲台地は「共楽園」という園地であったが、砲台設置のため無残な姿となった。（『新市史』別軍）</p> <p>この年、鷹取山防空砲台（湘南鷹取1丁目）が設置される。装備は12cm高角砲4基、25mm機銃3基、13mm連装機銃2基、96式150cm探照灯1基等。（『新市史』別軍）</p>
<p>昭和20 (1945)</p>	<p>1.30 喜劇役者古川緑波、追浜の海軍航空隊で格納庫内の急造舞台で慰問演芸を披露する。（『古川緑波昭和日記』）</p> <p>2.25 海軍航空技術廠本廠（深浦）を第一海軍技術廠、支廠（釜利谷）を第一海軍技術廠支廠と改称し、別に電波、音響関係の実験研究機関として、第二海軍技術廠が設けられた。この頃、両廠で職員1,700人、工員3万1,700人という。（『海軍空技廠』）</p> <p>3. 1 航空技術廠内（深浦）に田浦海軍航空隊が開隊。雷爆兵器整備教育担当の練習航空隊であった。（『新市史』別軍）</p> <p>3.11 鷹取山で憲兵による女学生凌辱事件が起こる。（『横須賀警察署史』）</p> <p>5. 5 横浜興信銀行追浜支店が営業を開始（旧都南銀行追浜支店を継承、駅前銀座通り）、同32年1月21日に現在地（追浜本町1丁目）に店舗を移転する。（『工業30』）</p> <p>7. 7 ロケット戦闘機「秋水」、第1回試験飛行を追浜飛行場で行うが、事故で失敗する。（『新市史』別軍）</p>

年 号	出 来 事
	<p>7.10 米空母「バターン」の第47戦闘機隊によって、追浜飛行場が爆撃を受ける。(『新市史』別軍事)</p> <p>7.31 横須賀海軍警備隊戦闘詳報第6号によれば、この時点で鷹取山高角砲台、追浜山機銃砲台、夏島機銃砲台、空技廠機銃砲台が設置されていた。(『新市史』別軍)</p> <p>8.15 戦争終結の詔書が放送される。</p> <p>8.30 連合軍(アメリカ軍)が、横須賀海軍航空隊追浜飛行場に進駐する。同時に横須賀海兵団(稲岡町)にも進駐。(『新市史』別軍)</p> <p>10. 2 追浜国民学校児童、同4日浦郷国民学校児童、集団疎開から帰る。(『市教育史』)</p> <p>10.22 追浜海軍共済組合病院が財団法人共済協会追浜共済病院と改称し、一般市民の診療を開始。(『共済病80』)</p> <p>11.11 追浜連合町内会は地元進駐軍慰安のため、慰安会を催すことになり、市当局にその斡旋を依頼する。(『神新』)</p> <p>この年、終戦直前まで追浜駅沿線(両側)の家屋が強制疎開で取り払われる。(聞取調査)</p>
<p>昭和21 (1946)</p>	<p>1. - (株)ボタンヤが創業する(川端延幸、追浜町)。(『工業30』)</p> <p>2. - 各小学校の御真影を県庁に返還する。(『市史80』別)</p> <p>3. 1 湘南国際病院が元海軍航空技術廠の技術将校宿舎(現在地)に開院する(70床)。(『湘南病50』)</p> <p>4. 1 浦郷・追浜国民学校を各小学校と改称する。同日市立追浜保育園が開設され、同時に戦時特設託児所(良心寺内)を廃止する。(『市史50』)</p> <p>4. - 伊奈典雄、「横須賀新聞」(発行隔日・週間)を発行。本社を天神橋前に置く。昭和28年1月より日刊とする。(『夕刊横須賀』)</p> <p>4. - 浦郷小学校で海軍航空隊寄贈の艦上戦闘機(天神号)を破棄、同格納庫を取り壊す。(『浦小沿革』)</p> <p>6. - 各学校の御真影奉安殿の撤去が指令される。(『教育年表』昭)</p> <p>11.18 日協低温(株)が設立される(川口満、浦郷町5丁目)。(『工業30』)</p>
<p>昭和22 (1947)</p>	<p>3. 1 協同工作(株)が設立される(浦郷町)。(『横経済史』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>3.27 光工業(株) (浦郷町 3 丁目、井上淳一) が設立される。(『横経済史』)</p> <p>3.31 昭和 1 5 年に定められた町内会は、訓令によって廃止される。(『市公報』)</p> <p>4. 1 新制中学校が発足し、同年 5 月浦郷中学校が浦郷小学校内に設置・開校される。(『浦小沿革』)</p> <p>9. - 各校の在籍生徒数は、浦郷小学校 9 7 5、追浜小学校 1, 1 8 1、浦郷中学校 3 5 7 とある。(『市勢要覧』)</p> <p>9. - 共立農機(株)横須賀工場が設立される (田中修吾、追浜本町)。(『横経済史』)</p> <p>10. - 横須賀市消防団条例が施行され、浦郷に消防団 (第 1 0 分団) が置かれる。(『市公報』)</p> <p>12.12 浦郷・船越両中学校を廃止し、田浦中学校を旧防備隊跡 (船越町) に開校する。(『市教育史』)</p> <p>12.26 日本和紡興業(株)が設立される (脊山藤吉、浦郷町 5 丁目)。(『横経済史』)</p> <p>この年、①旧天神海軍用地 (追浜本町 2 丁目) に戦後初の本格的な市営住宅の建設が始まる。昭和 2 2 年度から同 3 3 年度までの 1 2 年間に、敷地総面積約 2 2, 8 9 0 坪、住宅 2 9 9 戸が建設される。(『市史 5 0』) ②浦郷地区の人口 1 万 8, 7 2 0 人という。(臨時国勢調査)</p>
<p>昭和 2 3 (1 9 4 8)</p>	<p>1. 1 この時まで追浜地区に進出した転換企業は 2 0 社となる。(『横経済史』)</p> <p>2. 5 旧鉾切地区住民が追浜復興協同組合を結成、軍用施設の返還に際して、大蔵省国有財産部に地上権の返還と軍用建物の払下げを要望する。(『神新』)</p> <p>3.17 追浜繊維(株)が設立される (広田講三、浦郷町)。(『横経済史』)</p> <p>3. - 市立追浜保育園、浦郷小学校内に移転。2 教室を使用する。(『浦小沿革』)</p> <p>4. - 私立白鳩幼稚園 (追浜本町 2 丁目) が開園する。(聞取調査)</p> <p>4. - 浦郷小学校在籍児童数 1, 3 2 7 人 (学級数 2 6)、追浜小学校 9 5 6 人 (同 1 8) という。(『新市史』 資近現Ⅲ)</p> <p>5. 1 横須賀市役所浦郷支所が新たに設置 (旧田浦憲兵分遣隊跡、追浜本町) される。(『市史 5 0』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>5. ー 追浜工業会が結成され、横須賀工業クラブに加入し、追浜支部となる。(『横経済史』)</p> <p>6. 1 京浜急行電鉄(株)が東京急行電鉄(株)から分離して独立する。(『京急80』)</p> <p>6.13 鉦切遺跡(古墳時代)の発掘調査が開始される。(『新市史』別考)</p> <p>7. ー 追浜浜勇商店が設立される(林信良、追浜町)。(『此処』)</p> <p>8.15 米陸軍特需会社の富士自動車(株)(社長山本惣治)が横須賀海軍航空隊跡地に進出、米軍車両の修理・再生を主要業務として米軍と契約。昭和33年(1958)までに再生した米軍車両は、のべ22万9,100台に及ぶ。(『占領下の横須賀』『横経済史』)</p> <p>8.23 良心寺本堂(追浜南町)が焼失する。(『良心寺しおり』)</p> <p>11. 8 追浜駅前病院医師で公安委員が朝比奈峠辺で殺害される事件が起こる。(『横須賀警察署史』)</p> <p>11. ー 浦郷小学校御真影奉安殿を取り壊し、その跡に学校給食調理所を新築する。(『浦小沿革』)</p>
<p>昭和24 (1949)</p>	<p>4. 1 追浜運動公園(夏島町)が開設される。面積8万7,682平方メートル。(『市公園』)</p> <p>6. 1 友和鑄造(株)が設立される(長谷川説雄、浦郷町1丁目)。(『横経済史』)</p> <p>7.19 石渡直次(榎戸)、第20代横須賀市長に就任する。(『市史50』)</p> <p>8.31 キティ台風の猛烈な風雨で甚大な被害あり。全県下に災害救助法が発令。(『神新』)</p> <p>9. ー 本浦会館(追浜本町)脇の火の見櫓が消防団によって建立される。(聞取調査)</p> <p>10. ー 米軍より旧海軍航空技術廠10万坪(総数約60万坪)が、日本政府に返還される。(『横経済史』)</p> <p>11.27 追浜総合運動場の硬式野球場開業式が、東急対太陽の公式試合を招いて盛大に挙行される。建設工事は昭和23年5月着工、同24年11月竣工。収容人員3万人、総面積1万300坪、工事費は約1,450万円。さらに軟式野球場、庭球場など建設工事中。(『市政時報』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>12.26 旧横須賀海軍航空隊追浜飛行場の帰属に関連して、横須賀・横浜両市境界問題の折衝が行われる。(『神新』)</p> <p>この年、追浜駅前商店会が結成される(追浜本町)。(『横経済史』)</p>
<p>昭和25 (1950)</p>	<p>1.24 追浜小学校、火災により496坪(14教室)を焼失する。(『追浜小50』『神新』)</p> <p>3.23 夏島貝塚(縄文時代早期)の第1回発掘調査(4月4日まで)が行われる。(『夏島貝塚』)</p> <p>4. 1 浦郷小学校の在籍児童数1,631人、追浜小学校在籍児童数1,054人という。(『教育統計』)</p> <p>4.25 ステルマン貿易倉庫(株)を設立(ステルマン、浦郷町5丁目、朝日貿易倉庫(株)の前身)。(『横経済史』)</p> <p>5. - (株)鈴木商店(鈴木善吉、浦郷町3丁目)が設立される。(『此处』)</p> <p>5. - 浦郷町2丁目地先水面(榎戸湾)1,603平方メートルの埋立地を編入する。(『市政時報』)</p> <p>6.28 「旧軍港市転換法」が公布・施行され、旧軍港市の平和産業港湾都市への転換が図られるようになる。主な目的は国有財産の払い下げに伴う特別待遇であった。(『官報』)</p> <p>7.11 市立追浜保育園を追浜本町(現在地)に新築移転し、落成式を行う。22日に開園する。(『市政時報』)</p> <p>8.10 本浦巡査駐在所を追浜町3丁目2番地(現在地)に新築移転、追浜駅前巡査派出所と改称する。(『田浦警察署史』)</p> <p>9.18 横須賀食糧商事(株)が設立される。同44年10月に太陽商事(株)と社名変更(浦郷町3丁目)。</p> <p>9.29 浦郷食糧販売企業組合(追浜本町1丁目、田川誠治)が設立される。(『商工名鑑』29)</p> <p>9.29 追浜食糧販売企業組合(追浜町2丁目、森辰衛)が設立される。(『商工名鑑』29)</p> <p>11.11 京浜発条(株)(片平與惣次、浦郷町5丁目)が設立される。(『此处』)</p> <p>11.30 「昭和25年国勢調査概数」では、浦郷地区の世帯数5,219、人口2万2,279とある。(『市報』)</p> <p>11. - 第1回米海軍基地杯争奪県下都市対抗軟式野球大会を追浜球場にて開催する。(『市体育史』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>この年、市営日向アパート2棟48戸（浦郷町1丁目）が建設される。これは横須賀市の公営アパート（鉄筋コンクリート造）の始めである。以後、同地で同27年までの3年間で4棟96戸が建設される。（『市史50』）</p>
<p>昭和26 (1951)</p>	<p>2.11 「明治憲法起草遺跡地記念碑」復興除幕式（大正15年建立したものが荒廃したため復興）を挙げる。（『神新』）</p> <p>3. 1 武山渉外労務管理事務所追浜分室（浦郷町）の事務が開始される。（『横経済史』）</p> <p>3.10 第1回京浜急行社長杯争奪女子野球大会が追浜球場で開催される。（『神新』）</p> <p>4. 1 浦郷地区の町名町界地番整理を実施。その結果、横須賀市浦郷は鷹取町、追浜本町、追浜町、追浜東町、追浜南町、夏島町、浦郷町の新町名に変更する。（『市報』）</p> <p>5.21 追浜進駐軍労働組合が結成される。組合員500人。（『民主運動史』）</p> <p>5. - 少年消防クラブが結成され、追浜・浦郷両小学校にもクラブ員を擁し、課外教育を実施する。（『市史50』）</p> <p>6.11 天神橋巡査派出所（追浜本町2-1）を設置する。のち、夏島巡査派出所と改称、さらに平成6年夏島町交番となる。（『田浦警察署史』）</p> <p>9.11 横須賀市議会、追浜地区再接収反対の陳情を議決する。（『民主運動史』）</p> <p>9. - この月、富士自動車(株)の従業員は6,033人という。旧追浜飛行場跡地は米軍追浜兵器廠で、軍直備が3,000人おり、富士自動車は契約工場として解体から組立てまでの作業を請負い、昨年再生車輛は4万6千台という。</p> <p>11. - 富士珪瑯鉄工(株)横須賀工場が設立される（市川義雄、浦郷町5丁目）。（『此処』）</p> <p>この年、協同組合追浜商盛会を設立（追浜町）及び追浜本町共栄会を結成。同年、帝国プロパン瓦斯(株)、追浜営業所を開設（横須賀において初のプロパン瓦斯を販売）。（『横経済史』）</p>
<p>昭和27 (1952)</p>	<p>1. 1 (株)片山工業所追浜工場が設立される（大木隆二郎、浦郷町5丁目）。（『横経済史』）</p>

年 号	出 来 事
	<p>6. 一 知事、追浜地区埋立地完成（112万8千平方m^2＝34万1千坪）承認を告示する。（『県告示』）</p> <p>7.26 日米行政協定により旧海軍航空技術廠跡に米陸軍第5兵器廠が設置され、既に進出していた転換工場20社のうち17社が再接収という。（『新市史』資近現Ⅲ、『横経済史』）</p> <p>8.15 全駐労横須賀追浜分会、フォマン排斥問題でストを開始する。（『民主運動史』）</p> <p>8.21 横須賀三浦信用金庫追浜支店（追浜町）が開設される。のち、三浦藤沢信用金庫（追浜本町）と改名、さらにはかながわ信用金庫となる。（『横経済史』）</p> <p>8. 一 「大東亜戦争戦死者慰霊塔」が、鉾切・正禅寺境内に建立される。（刻銘碑文）</p> <p>10. 1 神奈川県追浜涉外労務管理事務所（浦郷町）が設置される。（『横経済史』）</p> <p>10. 一 天神橋（鷹取川）が竣工する。（親柱銘）</p> <p>10. 一 榑青木商店追浜工場が設立される（吉田金雄、夏島町）。（『此处』）</p> <p>12. 4 道路法の全面改正により国道路線は全廃され、国道31号は新しく一級国道16号線となる。（『市史50』）</p>
<p>昭和28 (1953)</p>	<p>1.12 鈴鹿建設榑が創業する（山田文雄、夏島町）。</p> <p>4. 5 室ノ木に保安隊の宿舍約100戸が建設省によって建てられる。（『神新』）</p> <p>4.10 榑多田工業が設立される（追浜南町1丁目）。</p> <p>5.21 横須賀信用金庫追浜支店（追浜本町）が開設される（平成1年7月に湘南信用金庫と改称）。（『横経済史』）</p> <p>5.21 米軍より追浜兵器工場跡の3,031平方m^2が返還される。（『横須賀市と基地』）</p> <p>6. 一 相模プロパン瓦斯商会在が設立される（水澤誠三郎、追浜町）。（『横経済史』）</p> <p>8.22 追浜地区社会福祉協議会が設立される。（『地区社会福祉協議会の概要』）</p> <p>10. 9 盗難にあった明治憲法起草遺跡記念碑の銅版発見により、原位置に納め再度の復元披露が行われる。（『神新』）</p>

年 号	出 来 事
	<p>10. - 追浜渉外労務管理事務所が閉鎖される。(『神新』)</p> <p>12.17 第一消防署追浜出張所(夏島町)の開所式が行われる。(『市報』)</p> <p>12.19 「市営母子住宅条例」により、追浜(追浜本町)に母子住宅が設置される。(『市史50』)</p>
<p>昭和29 (1954)</p>	<p>2.19 追浜ヘリコプター地区、再接収される。(『提供施設』)</p> <p>5.24 追浜渉外労務管理事務所が再置(追浜本町2丁目)される。(『県公報』)</p> <p>6.30 私立追浜幼稚園(鷹取1丁目)が開園する。(聞取調査)</p> <p>6. - 相模造船(株)が本店を三春町から浦郷町2丁目に移転する。(『相模造50』)</p> <p>7.20 県立横須賀公共職業補導所(浦郷町4丁目)が設置される。(『県公報』)</p> <p>7.26 浦郷町5丁目地先に第2港湾局の埋立294平方メートルが竣工し認可となる。(『市報』)</p> <p>7. - 特需会社日本飛行機(株)が、追浜の米陸軍第5兵器廠内に進出する。(『横経済史』)</p> <p>10. 1 高坂工務店が創業する(高坂英司、追浜本町)。昭和53年神奈川県ナショナル住宅(株)となる。(『横経済史』)</p> <p>11.22 浦郷小学校創立80周年式典を行い、『沿革誌』(孔版)を発刊する。在籍児童1,005人、19学級。(『創立八拾周年記念 沿革誌』)</p> <p>12. 1 浦郷支所管内の世帯数6,066、人口2万6,248人という。(『市統計書』)</p> <p>この年、(株)東横製作所(中沢誠一、追浜本町)が創立し、浦郷町5丁目に工場を設置。(『此処』)</p>
<p>昭和30 (1955)</p>	<p>1.20 武山渉外労務管理事務所を追浜渉外労務管理事務所に統合する。(『県公報』)</p> <p>2.20 法福寺本堂(追浜本町)が近隣からの出火で類焼する。(『法福寺誌』)</p> <p>3.24 独園寺境内(浦郷町3丁目)に「大東亜戦争戦没者慰霊塔」が建立される。(刻銘碑文)</p> <p>4. 1 湘南国際病院を湘南福祉会湘南病院と改称する。(『湘南病50』)</p> <p>4.19 全駐労追浜支部300人が144時間ストを実施する。(『民主運動史』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>5.15 浦郷町3丁目地先を横須賀市が816平方㍍を埋立、竣工認可される。</p> <p>5.18 特需会社富士自動車(株)が、従業員3,880人の解雇を発表。3,569人が解雇される。(『民主運動史』)</p> <p>5.－ 第1回小・中・高校第二部会児童生徒体育大会を追浜小学校にて開催する。(『市体育史』)</p> <p>6.10 富士自動車(株)従業員、解雇反対の24時間ストライキおよびデモを行う。(『民主運動史』)</p> <p>6.18 夏島貝塚の第2回発掘調査が行われる。6月23日まで継続。(『新市史』別考)</p> <p>6.21 富士自動車(株)従業員、48時間ストライキを実施する。(『民主運動史』)</p> <p>6.－ 雷神社社殿(追浜本町)が焼失する。(『神新』)</p> <p>8.9 横浜市金沢区長ら、米軍ヘリコプター基地(現追浜運動公園)を訪れ、騒音に抗議する。(『民主運動史』)</p> <p>8.18 日向児童公園(浦郷町1丁目、1,509平方㍍)が開設される。(『市公園』)</p> <p>10.25 浦郷小学校分校(浦郷町4-35)のRC3階校舎が完成。校地は旧海軍鉞切用地6,700余坪。11月8日に開校する(後の夏島小学校)。(『市報』)</p> <p>10.－ 第10回国民体育大会神奈川大会の軟式野球が追浜球場で実施される。</p> <p>この年、歌人吉野秀雄が追浜小学校の校歌を作詞する。(『追浜小50』)</p>
<p>昭和31 (1956)</p>	<p>4.1 私立ぎんのすず幼稚園(追浜町2丁目)が開園する。(聞取調査)</p> <p>5.5 鷹取公園(鷹取町1丁目、12,955平方㍍)が開設される。(『市公園』)</p> <p>5.28 戦後荒廃していた「海軍航空発祥之地記念碑」を再建竣工、除幕式を挙げる。(『神新』)</p> <p>5.－ 京浜研磨機工業(株)(野中元司、浦郷町)が設立される。(『横経済史』)</p> <p>10.31 豪雨のため鷹取川が氾濫する。(『神新』)</p> <p>12.－ 追浜小学校、給食優良校として県表彰を受ける。(『戦後教育』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>この年、①浦郷塵芥焼却場の炉を補修し、30mの煙突を築造して処分日量23トンとする。(『市報』) ②追浜東映劇場(追浜本町)が開館するという。(聞取調査)</p>
<p>昭和32 (1957)</p>	<p>1.20 浦郷官修墓地は戦後国がその維持管理を打ち切ったため、「横須賀市追浜等にある官修墳墓の祭祀及管理の復活に関する請願書」が農洋会によって国会に提出される。(請願書写)</p> <p>1.21 横浜銀行追浜支店、現在地(追浜本町)に店舗を移転する。(『工業30』)</p> <p>6. - 湘南病院、小児結核療養施設の湘南玉葉愛児園を設置する。(『湘南病50』)</p> <p>9. - 有限会社岸風呂店(岸竹春、追浜町3丁目)が設立される。(『此处』)</p> <p>12. - 東亜学園東亜高等学校(現・横浜創学館高校)が現在地にあった旧海軍兵舎に横浜市鶴見区から移転し、再開する。(『学校記念誌』)</p> <p>12. - 雷神社社殿(RC造)が再建される。設計大岡実博士、施工高坂工務店。(大岡実建築研究所HP)</p>
<p>昭和33 (1958)</p>	<p>1.24 東亜高等学校を横浜商工高等学校に名称変更し、この日を創立記念日とする。(『学校記念誌』)</p> <p>1. - 米陸軍特需会社日本飛行機(株)追浜工場で1,000人が解雇される。(『民主運動史』)</p> <p>3. 3 浦郷町1丁目地先の公有水面226平方メートルの埋立竣工が認可される。</p> <p>6. - (株)岡村製作所、追浜工場(浦郷町)を新設、操業を開始する。(『岡村70』)</p> <p>7. 1 日本飛行機(株)追浜工場が労務者1,006人の解雇を発表する。(『民主運動史』)</p> <p>9. 3 追浜基地内7組合共闘会議主催、人員整理反対総決起大会(5,000人、富士自動車内広場)を開催する。(『民主運動史』)</p> <p>9.15 日本飛行機(株)追浜工場3労組、一斉ストライキ。(『民主運動史』)</p> <p>9.19 追浜基地内7組合はストライキと工場閉鎖反対の第2回総決起大会を開催、参加者4,000人。(『民主運動史』)</p> <p>9.26 狩野川台風の豪雨により、家屋等甚大な被害があり、災害救助法が発動される。(『横須賀百年史』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>9.30 特需会社日本飛行機(株)が閉鎖され、全従業員2,986人が解雇される。(『神新』)</p> <p>10. ー 浦郷町3丁目65番地地先(深浦湾)816平方m^2を埋立・編入する。</p> <p>この年、①追浜東町商店会が発足。また、天神商店会も結成される。②西武系の国土計画興業が、鷹取山一帯約132万平方m^2(40万坪)を買収する。(『神新』)</p>
<p>昭和34 (1959)</p>	<p>1. 6 米陸軍特需会社富士自動車(株)が閉鎖され、全従業員3,346人が解雇される。(『民主運動史』)</p> <p>4. 1 北郷児童公園(追浜町1丁目)が開設される(1,474平方m^2)。(『市公園』)</p> <p>4.16 夏島貝塚出土のカキ・木炭のC年代測定をミシガン大学で行い、カキ(9450±400BP)、木炭(9240±500BP)の測定値がでる(我が国初の試み)。(『朝日新聞』)</p> <p>5. ー 日産自動車(株)、追浜地区払下げの申請をする。(『横経済史』)</p> <p>6.30 米陸軍追浜兵器廠が閉鎖され、全従業員2,152人が解雇される。(『民主運動史』『市広報』)</p> <p>6.30 追浜米陸軍兵器廠跡地約156万7,500平方m^2(47万5千坪)が14年振りに返還されることになり、その第1回分として約118万8,000平方m^2(36万坪)が解除され、この日返還式が行われる。(『民主運動史』『横須賀と基地』)</p> <p>7. ー 日向・八王子社、もとの宮地へ拝殿を修築して遷宮する。(『回想』)</p> <p>8.14 横浜市が追浜返還予定地区の帰属未定を理由に、工場進出申請の保留を大蔵省に申し入れる。(『神新』)</p> <p>8.17 追浜地先埋立地の帰属について、県が横須賀・横浜両市長を招いて、その主張を聴取。(『神新』)</p> <p>9.30 追浜地先埋立地の帰属に関する県知事の斡旋案が、横須賀・横浜両市に提示される。(『神新』)</p> <p>9.30 米軍、日本政府へ追浜地区の土地1,526坪、建物1,756坪を正式に返還する。(『民主運動史』)</p> <p>10.18 追浜埋立地の件で横須賀・横浜両市境界、知事斡旋案受諾の調印式が行われる。当面、横須賀市に帰属することに決まり、11年振りに解決する。(『神新』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>10.24 (告示) 総理府339号により、横須賀市夏島地先公有水面埋立地34万1,409.36坪の所属未定地を、横須賀市に編入することが確定する。(『官報』)</p> <p>11.9 国有財産処理審議会が追浜接收解除地区進出希望企業72社のうち、日産自動車(株)ほか26社を決定する。(『横須賀百年史』)</p> <p>11.24 全駐労横須賀支部追浜分会、解雇反対などで48時間ストを行う。(『民主運動史』)</p> <p>11.30 米軍、日本政府へ追浜地区の土地14万7,414坪、建物1,618坪を正式に返還する。(『民主運動史』)</p>
<p>昭和35 (1960)</p>	<p>2.25 日産自動車(株)、追浜地区(夏島町)に進出する。(『横経済史』)</p> <p>4.1 夏島小学校(浦郷小学校分校)、独立して開校する。(『夏島小学校記念誌』)</p> <p>4.1 田浦中学校分校(夏島町)が設置される(のちの追浜中学校)。(『追浜中学校記念誌』)</p> <p>4.1 在籍児童数は浦郷小1,492人、追浜小952人、夏島小738人という。(教育統計)</p> <p>4.7 イシカワ製作所横須賀工場が開設される(石川昇、浦郷町5丁目)。(『此処』)</p> <p>4. 鷹取山の磨崖仏第1号の釈迦如来坐像(高約4m)が完成する。作者藤島茂(市内佐原、二紀会会員)。(『神新』)</p> <p>5.26 米軍、日本政府へ追浜地区の土地8,161坪、建物5,880坪を正式返還する。(『民主運動史』)</p> <p>5. 良心寺(追浜南町)本堂が再建される。RC造、バゴダ風の意匠で、建坪約80坪。設計は藤岡通夫博士。(聞取調査)</p> <p>6.6 関東自動車工業(株)、深浦工場(浦郷町5丁目)の一部操業開始する。(『横経済史』)</p> <p>6.27 米軍、日本政府へ追浜地区の土地5,232坪、建物2,056坪を正式返還する。(『民主運動史』)</p> <p>7. 大島工業(株)、追浜工場を開設する(大島竹一、浦郷町5丁目)。(『横経済史』)</p> <p>8.26 米軍、日本政府へ追浜地区の建物275坪を返還する。(『民主運動史』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>9. ー 雷神社境内に「戦没者慰霊碑」を浦郷支所管内戦没者慰霊碑建設委員会が建立、題字野村吉三郎書。(刻銘碑文)</p> <p>10.21 東邦化学工業(株)、追浜工場及び研究所(浦郷町5丁目)を開設する。(『横経済史』)</p> <p>10.24 米軍、日本政府へ追浜地区の土地1万9,794坪、建物320坪を正式返還する(ヘリコプター基地を含む)。昭和34年より延べ7回にわたり土地54万3,040坪、建物6万9,291坪を返還する。(『民主運動史』『市と基地』)</p> <p>10. ー 追浜会を結成する(第2次接収解除により進出した企業で組織)。(『横経済史』)</p> <p>11. 9 夏島小学校創立記念式典が挙行され、校歌・校章が発表される。(『夏島小学校記念誌』)</p> <p>11. ー 日本和紡興業(株)、営業を開始する(浦郷町5丁目)。(『横経済史』)</p> <p>12.23 追浜渉外労務管理事務所が廃止され、横須賀渉外労務管理事務所に統合される。(『県公報』)</p> <p>この年、①鷹取商栄会が結成される。②東京ファインケミカル(株)が設立される(夏島町)。(『工業会30年』)③浦郷地区の人口2万7,396人という。(国勢調査)</p>
<p>昭和36 (1961)</p>	<p>2. 3 国有財産処理審議会が追浜解放地区第2次進出企業として14社を決定する。(『横須賀百年史』)</p> <p>2.10 横須賀市による浦郷町2丁目地先1,603平方m^2の埋立が竣工認可される(榎戸湾・公園用地)。(『市報』)</p> <p>2.25 日産自動車(株)追浜工場(夏島町)の起工式が行われる(敷地100万平方m^2、総工費139億円)。(『横経済史』『神新』)</p> <p>3. 9 関東自動車(株)横須賀工場(浦郷町5丁目)の竣工式が行われる。敷地面積3万7,018平方m^2。(『横経済史』)</p> <p>3.31 神応橋(鷹取川)が竣工する。(親柱銘)</p> <p>3. ー 新浦郷トンネル(追浜町1丁目・船越町5丁目間)が竣工する。(『トンネル』)</p> <p>4. 1 追浜中学校(田浦中学校分校)が独立して開校する。敷地2万6,357平方m^2、木造2階建て校舎5棟を新設。工費5,687万余円。生徒数1,918人という。(『追浜中学校記念誌』)</p> <p>4.10 追浜協同工業企業組合が設立される。(『横経済史』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>5.12 池田物産(株)追浜工場（夏島町）が開設される。（『横経済史』）</p> <p>6. 1 田川地所（株）が設立される（田川誠治、浦郷町）。（『横経済史』）</p> <p>6. 7 鷹取山に磨崖仏第2作の「弥勒菩薩坐像」が完成、公開する。作者藤島茂。（『神新』）</p> <p>6.15 日産自動車(株)、追浜工場に高速試験場完成。（『横経済史』）</p> <p>6.28 台風6号の集中豪雨により、全市で死者16人、家屋全壊71、同半壊97、床上浸水876などの被害があり、被災者総数1万7,826人と云われ、災害救助法が発動される。（『市概要』）</p> <p>6. - 日本エアブレーキ(株)横須賀工場（浦郷町5丁目）が開設される。（『横経済史』）</p> <p>11. 7 鷹取川氾濫防止対策委員会は、開発工事に関して西武鉄道、県に陳情する。（『西武社内報』）</p> <p>11. 9 追浜プレス企業組合を設立する。（『横経済史』）</p> <p>11.27 川西工業(株)追浜工場が開設される（浦郷町5丁目）。（『横経済史』）</p> <p>11. - 浜浦給食(株)が操業を開始する（浦郷町5丁目）。また(株)東横製作所が浦郷工場を新設。（『横経済史』）</p> <p>この年、浦郷支所管内の世帯数6,806、人口2万7,330人。（市統計書）</p>
<p>昭和37 (1962)</p>	<p>3.13 横須賀北ロータリークラブが設立される（会長木村秀雄）。（『横経済史』）</p> <p>3.27 日産自動車(株)追浜工場が竣工し、全面稼働に入る。（『横経済史』）</p> <p>3. - 追浜橋（鷹取川河口）が竣工する。長さ23メートル、工費1,627万余円。（親柱銘）</p> <p>4.20 浦郷団地（浦郷町4丁目・追浜東町3丁目地内）の造成工事が竣工する。市都市施設公社施工。（『公社のあゆみ』）</p> <p>5. 3 榎戸・正観寺薬師堂が再建され、落慶法要が挙行される。（『正観寺誌』）</p> <p>5. - 日本ラヂエーター(株)追浜工場が設立される（木村秀雄、夏島町）。（『横経済史』）</p> <p>5. - (株)富士オイルが設立される（夏島町）。（『横経済史』）</p> <p>6.10 (株)青木製作所追浜工場が設立される（浦郷町5丁目）。（『横経済史』）</p>

年 号	出 来 事
	<p>6. - ビジネスホテル夏島園（夏島町）が営業を開始する。（『工業30』）</p> <p>6. - カルソニック(株)追浜工場（夏島町）が設立される。（『工業30』）</p> <p>6. - 北辰工業(株)、旧海軍航空技術廠庁舎（浦郷町5丁目）の払下げを受ける。（『新市史』別文）</p> <p>7.11 三上製作所追浜工場（夏島町）が操業開始する。（『横経済史』）</p> <p>7.20 追浜市営プールの竣工式が挙行される（市営追浜球場隣り・追浜公園用地内）。工費900万円。昭和61年10月に廃止。（『神新』）</p> <p>10. 1 神奈川県立追浜高等学校の設置（県告示）</p> <p>10. - 追浜地区進出転換企業各社の従業員数が7,605人に達する。（『横経済史』）</p> <p>11. 1 浦郷官修墓地は国より無償貸付けとなり、管理を委託されて引継ぎを終了。（『市公示』）</p> <p>11. - 京浜発条(株)が本社・工場を浦郷町5丁目に移転し、操業を開始する。（『工業30』）</p>
<p>昭和38 (1963)</p>	<p>1.10 グレート・スーパー・チェーン結成、大木商店（追浜町3丁目）が加盟する。（『横経済史』）</p> <p>4. 1 県立追浜職業訓練所（浦郷町4丁目）が開設される。（『県公報』）</p> <p>4. 1 浦郷児童公園（浦郷町2丁目・5,919平方m^2）が開設される。（『市公園』）</p> <p>4. 1 榎戸巡査駐在所を浦郷町駐在所と改称する。（『田浦警察署史』）</p> <p>4. 5 県立追浜高等学校が開校、第1回生501名が入学。5月20日に開校式を挙行、敷地4万9,500平方m^2。（『追高40』）</p> <p>6.14 (株)京急自動車学校、追浜自動車学校を開校する（夏島町）。（『横経済史』）</p> <p>8. 6 夏島土地区画整理事業が始まる（40年1月22日迄）。面積20万8,664平方m^2。（『市史80』下）</p> <p>8. - 追浜駅前に追浜ショッピング・センターが完成する（追浜町3丁目）。（『神新』）</p> <p>9.27 横須賀市、旧横須賀海軍航空隊施設（土地49万9,854平方m^2）の全面返還を米軍・日本政府などに要望する。（『神新』）</p> <p>10. - (株)瀧澤鑄機製作所が設立される（浦郷町3丁目）。</p>

年 号	出 来 事
<p>昭和39 (1964)</p>	<p>1. - 浜見台トンネル（浜見台1丁目・浜見台2丁目間）が竣工。市都市施設公社施工。（『公社のあゆみ』）</p> <p>2. - 北辰化学工業(株)横須賀工場が操業開始する（浦郷町5丁目）。昭和52年10月北辰工業(株)と改称する。（『工業会30』）</p> <p>3.16 横須賀市議会、旧追浜海軍航空隊施設の返還要望の決議を可決する。（『議会史』記1）</p> <p>4. 1 県立大船技術高等学校の追浜分校が開校、追浜職業訓練所を併置する（浦郷町4丁目31番地）。（『県公報』）</p> <p>4. 1 県立追浜高等学校に定時制を設置する。（『県公報』）</p> <p>4. 1 追浜管内学校の在籍児童生徒数は、追浜中1,633、浦郷小1,108、追浜小657、夏島小605という。（『教育資料』）</p> <p>4.28 日産自動車(株)、追浜工場でI車種（ブルーバード）月産1万台を達成する。（『日産64』）</p> <p>8.30 朝倉能登守景隆一統の慰霊祭を、追浜南町1丁目の正明会有志がやぐら前で挙る。（聞取調査）</p> <p>9. - 上原塗装工業(株)が設立される（追浜本町2丁目）。（『横経済史』）</p> <p>10. 1 横須賀市浦郷支所を追浜支所と改称する。（『市広報』）</p> <p>10. 7 東京オリンピックの聖火リレー、追浜駅前を通過する。（『神新』）</p> <p>11. - 追浜小学校、健康優良学校全国第3位となる。（『追浜小学校記念誌』）</p> <p>この年、日産自動車(株)追浜工場の従業員4,700人という。</p>
<p>昭和40 (1965)</p>	<p>2. 6 土地区画整理施行のため、浦郷町4丁目及び追浜東町3丁目の一部を夏島町に変更する。（『横須賀の町名』）</p> <p>2.27 市道追浜～鷹取線（拡幅）520メートルが完成する。（『神新』）</p> <p>3. 5 追浜中学校の体育館兼講堂の落成式が行われる。（『追浜中学校記念誌』）</p> <p>3.30 鷹取川の下流が2級河川に昇格、県管理となる。（『県公報』）</p> <p>3. - 大浜鉄工所が追浜工場を新設する（夏島町15番地）。昭和53年市内三春町に在った本社・工場を現在地に移転する。（『工業会30』）</p> <p>4. 1 追浜共済病院が横浜南共済病院と改称、本館が新築完成する。（『図説かなざわの歴史』）</p>

年 号	出 来 事
	<p>7. 一 (株)三鈴精機が設立される (浦郷町3丁目)。</p> <p>11.4 日産自動車(株)追浜工場の「第1追浜丸」(日本最初の外航乗用車専用船)、対米輸出で長浦港を出港する。(『日産64』)</p> <p>この年、夏島商店会が結成される (浦郷町)。(『横経済史』)</p>
<p>昭和41 (1966)</p>	<p>1. 3 追浜大通り会、アーケードが完成する。(『横経済史』)</p> <p>1.22 県立追浜高校、全校舎落成式を挙げる。(『記念誌』)</p> <p>2.19 市立追浜乳児保育園(追浜本町2丁目)が建設・竣工する。開園は5月1日、定員32名とする。(『市広報』)</p> <p>3. 8 夏島小学校、講堂兼体育館の落成式を挙げる。(『夏島小学校記念誌』)</p> <p>3.21 榎戸・正観寺、半鐘が新鑄されて奉納される。(『正観寺誌』)</p> <p>4. 1 追浜本町第2幼児公園(追浜本町2丁目・367平方m)が開設される。(『市公園』)</p> <p>4. 1 山川工業(株)横浜工場第2製造所(夏島町)が開設される。(『横経済史』)</p> <p>6.28 台風4号の暴風雨で被害あり。(『神新』)</p> <p>6.29 追浜小学校で学校給食による集団赤痢中毒発生のため学級閉鎖される。罹患児童数460名。同6月30日～7月13日まで休校する。(『追浜小50』)</p>
<p>昭和42 (1967)</p>	<p>1.16 西武鉄道(株)、鷹取山分譲地造成の起工式を挙げる。(『社内報西武』)</p> <p>3.31 『校訂三浦古尋録』が刊行される。(左書奥付)</p> <p>4. 1 県立大船技術高等学校追浜分校、県立追浜技術高等学校として独立する。(『県公報』)</p> <p>6.11 法福寺本堂(追浜本町)を再建、この日入仏式を挙げる。(『法福寺誌』)</p> <p>10.21 西武鉄道(株)、鷹取町宅地造成工事に着手。造成面積117万8,589平方mという。(『横経済史』)</p> <p>11. 一 雷神社前の歩道橋が竣工する。</p> <p>11. 一 ヨコサンスーパー追浜店が開店(追浜本町、ヨコサンスーパーの1号店)。(『横経済史』)</p>

年 号	出 来 事
	この年、岡村製作所(浦郷町5丁目)の工場建設のため、範頼伝説の「やぐら」が取崩され、消滅する。(社内報)
昭和43 (1968)	<p>3. 1 ㈱美装が設立される(福島義信、湘南鷹取1丁目)。(『横経済史』)</p> <p>5. 3 榎戸・正観寺で新鑄梵鐘と鐘楼の落慶法要が挙行される。(『正観寺誌』)</p> <p>10. - 日産自動車(株)追浜工場の従業員が1万人を突破する。(『横経済史』)</p> <p>11. 1 浦賀重工業(株)、造船施設(夏島)新設許可申請書を運輸省に提出。(『横経済史』)</p> <p>12.16 西武鉄道(株)による湘南鷹取団地造成工事の第1期工事(湘南鷹取1丁目地区、16.5%)が竣工する。(『西武社内報』)</p> <p>この年、浦郷塵芥焼却場の廃止が決定されたが、以後、日量2.5トン程の処分を継続、最終的に昭和57年に廃止される。(『市史80』)</p>
昭和44 (1969)	<p>1. 5 鷹取川流域の浸水対策のため、市営追浜ポンプ場の運転を開始する。(『下水道概要』)</p> <p>3. - 湘南鷹取第1および第2トンネルが竣工する。(『トンネル』)</p> <p>3. - 西武鉄道鷹取分譲地、第一期426戸分を売り出す。平均面積56坪、坪当たり約6万円。(『社内報西武』)</p> <p>5. 1 石川工業(株)(石川達治、浦郷町)が設立される。(『横経済史』)</p> <p>6.30 浦賀重工業(株)、住友機械工業(株)と合併、住友重機械工業(株)となる。(『住友100』)</p> <p>7. 1 ㈱タケナガが設立される(竹永幸衛、追浜本町)。(『横経済史』)</p> <p>9.17 夏島運輸(株)が設立される(近藤誠、夏島町)。のち同57年12月浦郷町5丁目の現在地に移転。(『横経済史』)</p> <p>10. 1 県立追浜職業訓練所(浦郷町4丁目)、職業訓練法改正により追浜専修職業訓練校と改称される。(『県公報』)</p> <p>11. 2 追浜電話交換局(追浜東町3丁目・天神橋前)が開局し、追浜地区の局番は61局から65局に変更となる。(『神新』)</p> <p>11. 8 夏島小学校、創立10周年記念式典を挙げる。(『記念誌』)</p> <p>11.11 住友重機械工業(株)、追浜造船所建設許可を運輸大臣から受ける。(『住友100』)</p>
昭和45 (1970)	4. 1 追浜地区の在籍児童数は浦郷小929人、追浜小656人、夏島小542人という。(『教育資料』)

年 号	出 来 事
	<p>4.13 追浜支所管内再開発促進協議会が発足する。(『横経済史』)</p> <p>4.13 市立追浜青少年の家が開設される(鷹取1丁目)。(『市報』)</p> <p>5.11 自得寺(追浜町)所蔵の「木造十王坐像」、能永寺(浦郷町)所蔵の「絹本地蔵十王図」、良心寺(追浜南町)所在の「朝倉能登守墓」が横須賀市重要文化財及び史跡に指定される。(『市報』)</p> <p>5.27 追浜歩道橋(旧行政センター前)の開通式が行われる。</p> <p>6.30 日米合同委員会、旧追浜海軍航空隊施設(45万平方m^2)について日本政府へ27万平方m^2を返還し、残りの18万平方m^2は海上自衛隊の使用・管理とすることを決定する。(『神新』)</p> <p>7. 1 日本触媒化学工業(株)追浜工場(夏島町)が開設される。(『横経済史』)</p> <p>11.18 住友重機械工業(株)追浜造船所(夏島町)のマンモスドックの起工式が挙行される。(『神新』)</p>
<p>昭和46 (1971)</p>	<p>2.19 米軍、日本政府へ旧追浜海軍航空隊施設の土地83,500坪(27万平方m^2)を返還する。(『横須賀と基地』)</p> <p>3. 4 追浜地区転換計画審議会が設置される。(『市概要』)</p> <p>6. 1 住友重機械工業(株)、追浜造船所が発足(世界最大の鍛造プレス完成)する。(『横経済史』)</p> <p>9.10 平和幼児公園(追浜町2丁目、708平方m^2)が開設される。(『市公園』)</p> <p>10. 1 海洋科学技術センターが正式に発足。横須賀市米が浜に仮事務所を設ける。(『海洋10』)</p> <p>12.19 住友重機械工業(株)追浜造船所が操業を開始する。(『住友100』)</p> <p>この年、鳶ノ入川(女川)の暗渠工事が始まる(妙法橋迄)。</p>
<p>昭和47 (1972)</p>	<p>1.27 「夏島貝塚」(夏島町)が国指定史跡となる。(文部省告示)</p> <p>2.10 住友重機械工業(株)、夏島町で62万3,236平方m^2の公有水面埋立が竣工許可される。9月には新ドックで第1船が完成する。(『住友100』)</p> <p>2. - 追浜小学校、創立30周年記念誌を発行する。(『教育資料』)</p> <p>4. 3 旧第1航空技術廠、横須賀海軍航空隊及び付属追浜飛行場の土地17万9,827平方m^2が返還される。この日まで約250万平方m^2が返還され、全地域が返還される。(『横須賀と基地』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>5.21 浦郷町駐在所を榎戸（浦郷町2丁目）より日向（浦郷町1丁目55番地）に新築移転する。（『田浦警察署史』）</p> <p>5.26 住友重機械工業(株)追浜造船所が完成する。（『横経済史』）</p> <p>6.28 浦郷火葬場（追浜東町）の使用を休止する。（『市概要』）</p> <p>11. 1 京急・追浜駅の橋上駅舎が完成、営業を開始する。</p> <p>11.18 新生商事(株)が設立される（昭和56年5月(株)寿徳庵商事と名称変更、追浜本町）。（『横経済史』）</p> <p>12.14 「大日本帝国憲法草案起草地記念碑」の移転について、横須賀市文化財専門審議会より横須賀市長に対して、史蹟保存の見地から再考善処の要望書が提出される。（要望書写）</p> <p>この年、鳶ノ入川の暗渠工事が続行、同48年に完成する。</p>
<p>昭和48 (1973)</p>	<p>2.10 米軍、夏島地先制限水域80万平方メートルを、日本政府に返還する。（『横経済史』）</p> <p>4. 1 夏島歴史公園（夏島町2、414平方メートル）を開設する。（『市公園』）</p> <p>4. 1 横須賀市追浜支所を追浜行政センター（夏島町7）と改称、公民館を併設して開館する（神応橋際）。建物概要はRC造地下1階、地上4階、塔屋1階で、公民館施設を備える。（『市報』）</p> <p>6. 1 追浜観光協会が設立される。（『会則』）</p> <p>6.13 海洋科学技術センター、夏島町へ仮事務所及び東京連絡所を移転。（『海洋10』）</p> <p>10. 5 (株)日本オートメーションサービスが設立される（杉山誠一郎、浦郷町4丁目）。（『横経済史』）</p> <p>12. 4 海洋科学技術センター（夏島町）が開所式を挙げる。（『海洋10』）</p>
<p>昭和49 (1974)</p>	<p>2.15 湘南鷹取1丁目から6丁目まで、住居表示が行われる（従来の鷹取町、追浜南町、追浜町の各一部の地区）。（『市報』）</p> <p>4. 1 私立たかとり幼稚園（湘南鷹取5丁目）が開園する。（聞取調査）</p> <p>4. 1 追浜管区内学校の在籍児童生徒数は、追浜中1,037、浦郷小895、追浜小919、夏島小583という。（『教育資料』）</p> <p>4.30 浦郷小学校、創立百周年記念『浦郷』を発刊する。（後書日付）</p> <p>5.16 鷹取台郵便局（湘南鷹取4丁目）が開局する。（聞取調査）</p>

年 号	出 来 事
	<p>6. 8 浦郷小学校、創立100周年の式典を挙げる。(『浦郷小学校百周年記念誌』)</p> <p>7. 8 台風8号による集中豪雨で被害あり。追浜地区で家屋全壊1、半壊15、床上浸水53等あり。(『市広報』)</p> <p>8. - 湘南病院が総合病院湘南病院と改称する。(『湘南病50』)</p> <p>11.7 たかとり宅造公害反対協議会(丸山正男会長)、西武汚水処理場拡張反対で市に陳情する。(『民主運動史』)</p> <p>12. 1 追浜工業(株)が設立される(北沢意成、追浜本町1丁目)。(『横経済史』)</p> <p>この年、浦郷商店会が発足する(浦郷町)。(『横経済史』)</p>
<p>昭和50 (1975)</p>	<p>4. 1 鷹取小学校(湘南鷹取4丁目)が追浜小学校から分離独立して開校する。在籍児童数448人(12学級)。(『市報』)</p> <p>4. 1 湘南鷹取巡査駐在所(湘南鷹取1-31)を設置する。(『田浦警察署史』)</p> <p>4.26 日産自動車(株)工場建設のため、「明治憲法起草遺跡記念碑」を設置場所より北へ200メートルの現在地に移設される。(『神新』)</p> <p>6.28 鷹取小学校、開校式を挙げるし、この日を創立記念日とする。(『教育資料』)</p> <p>7. 4 集中豪雨で被害あり。平作川が氾濫する。(『神新』)</p>
<p>昭和51 (1976)</p>	<p>2.11 三井住宅設備(株)が設立される(三浦茂実、追浜本町)。(『横経済史』)</p> <p>3. - 県立追浜技術高等学校は第10回、同追浜専修職業訓練校は第9回の卒業式を挙げ、各廃校となる(浦郷町4丁目)。(『神奈川県立技術高等学校の設立と廃止』)</p> <p>4. - 湘南病院、病弱児童のため追浜小学校の分教室「ねぎぼうず学級」を開設する。(『湘南病50』)</p> <p>6. 1 (株)カワバタを設立(川端延幸、追浜町)。昭和54年5月(株)コーワハウジングと名称変更。(『横経済史』)</p> <p>9.22 (株)寿福が設立(斉藤音吉、追浜本町)される。</p> <p>9.26 海洋科学技術センター(夏島町)、日本最初の海中ロボットを完成する。(『海洋10』)</p> <p>10. - 追浜公民館サークル協議会が結成される。(『公民10』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>11. ー 第1回追浜公民館の市民サロン(作品展示会)が開催される。(『公民10』)</p> <p>この年、追浜2丁目共栄会が結成される。(『横経済史』)</p>
<p>昭和52 (1977)</p>	<p>3. 1 浜見台1丁目、2丁目の住居表示が実施される。(『市報』)</p> <p>3. 1 住居表示により、浦郷町1.2丁目の一部を船越町8丁目に変更する。(『横須賀の町名』)</p> <p>3. 1 榎戸・正観寺で『正観寺誌』(宮沢善正著)を発刊する。(左書奥付)</p> <p>3.24 旧鉾切住民代表蒲谷秀吉より横須賀市長あて陳情書が提出される。旧鉾切地区に残った自然環境を整備し、夏島を含めて自然臨海公園を実現して欲しいという内容である。(陳情書写)</p> <p>4. 1 市立追浜保育園(追浜本町)、現在地で全面改築する。(『市広報』)</p> <p>4. 1 神奈川花王(株)横須賀営業所を開設する(浦郷町)。(『横経済史』)</p> <p>4.30 良心寺庫裏で「郷土を語る会」が開催される。住職野中純道、高橋慎太、丸山一雄など多数参加する。(議事覚書)</p> <p>6.18 皇太子殿下、夏島の海洋科学技術センターをご視察される。(『海洋10』)</p> <p>7.12 追浜東町1丁目第2幼児公園(886平方m^2)が開設される。(『市公園』)</p> <p>9. 1 三ツ星ベルト(株)神奈川工場が開設される(夏島町)。(『横経済史』)</p> <p>この年、追浜東宝劇場(追浜本町・銀座通り)が閉館するという。(聞取調査)</p>
<p>昭和53 (1978)</p>	<p>2. 1 住友横須賀鉄工(株)が設立される(久保田元、夏島町)。(『横経済史』)</p> <p>2.24 東洋企業(株)が設立される(大島明、浦郷町)。(『横経済史』)</p> <p>6.21 (株)横須賀環境技術センターが設立される(鈴木才一郎、浦郷町5丁目)。(『横経済史』)</p> <p>7. 1 湘南鷹取5丁目第2児童公園(5,581平方m^2)及びプールが開設される。(『市公園』)</p> <p>9. 1 住友重機械工業(株)浦賀造船所、造船不況のため追浜造船所に統合、追浜造船所浦賀工場となる。(『住友100』)</p> <p>12.16 湘南鷹取から国道16号への跨線跨道橋の開通式が行われる。(『神新』)</p>

年 号	出 来 事
	12.18 横須賀郷土資料叢書第1回配本で、『浦郷村郷土誌』『田浦町誌』が復刻発刊される。
昭和54 (1979)	<p>1.25 住友重機械工業(株)追浜造船所住友労組、希望退職1,200人で労使妥結する。(『民主運動史』)</p> <p>2.13 住友重機械工業(株)、造船不況による希望退職者数が583人になったと発表。(『民主運動史』)</p> <p>5.11 住友重機反合闘争支援連絡会、追浜造船所門前で抗議集会を開催する。(『民主運動史』)</p> <p>6.25 追浜駅前市街地再開発の都市計画が決定する。(『市報』)</p> <p>7. - 第二浜見台トンネル(浜見台2丁目・53㍍)が完成する。(『トンネル』)</p> <p>10. - 横須賀工業(株)、生産工場を市内根岸から追浜(浦郷町5丁目)に全面移転する。(『工業30』)</p> <p>11.17 夏島小学校、創立20周年記念式典を挙行し、『創立20年記念誌なつしま』を発刊する。(『教育資料』)</p> <p>この年、鉾切遺跡(古墳時代)を発掘調査、さらに同58年にも再度調査する。(『新市史』別考古)</p>
昭和55 (1980)	<p>4. 1 鷹取中学校(湘南鷹取2丁目)が、追浜中学校から分離独立して開校する。生徒数449人(『市報』)</p> <p>4. 1 追浜東町1丁目児童公園(1,926平方㍍)が開設される。(『市公園』)</p> <p>4.15 住重追浜造船所で貨物船の改造作業中に事故、下請け作業員13人が軽傷を負う。(『民主運動史』)</p> <p>7.26 追浜公園硬式野球場でナイター設備完成、点灯式と第1回市民納涼のつどいが行われる。(『神新』)</p> <p>10. - 鷹取山で校外授業の小学生が転落死、岩登り3年間全面禁止となる。(『神新』)</p> <p>10. - 追浜行政センター管内の人口3万3,566人、横須賀市の人口42万1,107人となる。(『市統計書』)</p> <p>この頃、追浜東映劇場(追浜本町)が閉館するという。(聞取調査)</p>
昭和56 (1981)	3.15 『古老が語るふるさとの歴史』北部編(横須賀市広報課編)が刊行される。(左書奥付)

年 号	出 来 事
	<p>3.31 浦郷火葬場（追浜東町1丁目）を廃止する（昭和46年6月から休止）。(『神新』)</p> <p>4. 1 湘南鷹取1丁目児童公園(4,226平方m^2)が開設される。(『市公園』)</p> <p>4. 1 湘南鷹取1丁目第2幼児公園（388平方m^2）が開設される。(『市公園』)</p> <p>4. 1 湘南鷹取2丁目幼児公園（465平方m^2）が開設される。(『市公園』)</p> <p>4. 1 湘南鷹取4丁目幼児公園（396平方m^2）が開設される。(『市公園』)</p> <p>4. 1 湘南鷹取4丁目第2児童公園（9,181平方m^2）が開設される。(『市公園』)</p> <p>4. 1 湘南鷹取2丁目第2幼児公園(809平方m^2)開設される。(『市公園』)</p> <p>4. 1 湘南鷹取5丁目児童公園(5,117平方m^2)が開設される。(『市公園』)</p> <p>4. 1 湘南鷹取3丁目児童公園(1,385平方m^2)が開設される。(『市公園』)</p> <p>4. 1 ケープ・トレーディング(株)が設立される（花房志郎、追浜町）。(『横経済史』)</p> <p>4.13 横須賀市が浦郷町1・2丁目地先（榎戸湾）5,704平方m^2を公園用地として埋立・編入する（浦郷公園）。(『市広報』)</p> <p>5. 2 追浜駅前第1街区市街地再開発ビルに関して、追浜駅前大型店対策委員会が結成される。(『横経済史』)</p> <p>5.20 第一勧業銀行追浜支店(追浜町3丁目・銀座通り)が開業する。(『横経済史』)</p> <p>6. 1 「予科練誕生之地」碑が、貝山緑地（浦郷町5丁目）に建立され、除幕式を挙げる。(刻銘碑文)</p> <p>7. - 追浜地区の事業所数1,190。従業員数2万3,559人という。(『市統計書』)</p>
<p>昭和57 (1982)</p>	<p>1.21 浦郷町5丁目横須賀市が清掃施設用として2万8,700平方m^2の埋立竣工が認可される。(『市報』)</p> <p>1.21 夏島町・浦郷町地先で日産自動車(株)による27万7,080平方m^2の埋立地が竣工認可される。(『市報』)</p> <p>3. - 鷹取川人道橋が竣工する（県立追浜高前）。4月2日渡り初め式が行われる。(『神新』)</p>

年 号	出 来 事
	<p>4. 1 追浜管区内学校の在籍児童生徒数は、追浜中 1, 0 1 2、鷹取中 5 5 4、浦郷小 1, 0 2 4、追浜小 4 7 7、夏島小 6 6 1、鷹取小 1, 3 5 8 で、この年、鷹取小は最多数となる。(『教育資料』)</p> <p>4.26 正光寺(追浜町)所蔵の木造阿弥陀如来立像が横須賀市重要文化財として指定される。(『市報』)</p> <p>4. ー 良心寺(追浜南町)、梵鐘を新鑄して鐘楼を再建する。(『良心寺しおり』)</p> <p>5.10 日向ヶ丘団地(日向・船越)が竣工する。同 5 5 年に「日向ヶ丘団地造成記念碑」(船越町 8 丁目公園)が建立される。(碑文銘)</p> <p>6. ー 「烏帽子岩の跡」碑が 1 5 0 メートルほど南西の現位置に移設される。(『神新』)</p> <p>6. ー 追浜球場にて東日本軟式野球選手権大会が開催される。(『市体育協会史』)</p> <p>7.26 夏島町で海洋科学技術センターによる 1 万 8, 3 9 1 平方メートルの埋立が竣工。8 月 1 0 日認可される。(『海洋 1 0』)</p> <p>10. ー 池田運輸(株)が創立される(浦郷町 5 丁目)。</p> <p>この年、①追浜行政センター管内の世帯数 1 万 1, 5 7 8 という。②笹古隆司著『浦郷村の今昔』(手刷版)が発行される。</p>
<p>昭和 5 8 (1 9 8 3)</p>	<p>2. 5 (株)東湘食品チェーンが設立する(高橋毅一郎、湘南鷹取)。(『横経済史』)</p> <p>4. 1 貝山緑地公園(45,274 平方メートル、浦郷町 5 丁目)が開設される。緑地の一部は自然教材園となっている。(『市報』『市公園』)</p> <p>4. 1 鷹取山一帯の 7 万 9, 2 2 7 平方メートルが西武鉄道(株)から横須賀市に無償譲渡され、鷹取山公園(湘南鷹取 3 丁目)として開設される。(『市公園』)</p> <p>4.25 西武鉄道(株)が昭和 4 2 年(1967)に着工した湘南鷹取団地造成工事が竣工する。開発面積合計は 1 3 0 万 9, 6 4 2 平方メートルという。(『市報』)</p> <p>5.30 日産自動車(株)追浜専用埠頭が完成、船積みが始まる。(『神新』)</p> <p>6. ー 追浜球場で昭和 5 8 年度関東高等学校男女ソフトボール大会を開催する。(『市体育協会史』)</p> <p>7. 2 『横須賀民主主義運動史年表』(横須賀民主主義運動史年表編纂会編)が発刊される。(右書奥付)</p>

年 号	出 来 事
	<p>7.15 湘南鷹取2丁目第3児童公園(3,574平方m^2)が開設される。(『市公園』)</p> <p>7.15 湘南鷹取3丁目第2児童公園(8,598平方m^2)が開設される。(『市公園』)</p> <p>7.28 追浜駅前市街地再開発第1街区の建設工事が完成する。(『神新』)</p> <p>8.22 追浜運動公園前で古墳時代の牛頭骨を使った祭祀遺跡が発掘される(なたぎり遺跡)。(『新市史』別考)</p> <p>10.19 追浜公民館(夏島町)開館10周年の記念式を行う。(『公民10』)</p> <p>12.16 追浜駅前ビル(株)が設立される(尾崎義雄、追浜本町)。(『横経済史』)</p> <p>12.27 田川誠一衆議院議員(日向)、自治大臣、国家公安委員長に就任する。(『神新』)</p> <p>12.31 追浜地区の製造業に属する事業所(4人以上)は、事業所数73、従業員数1万3,969人、製造品出荷額等8,716億3,100万円(『市統計書』)。</p>
<p>昭和59 (1984)</p>	<p>1.20 浦郷町4丁目地先で住友重機械工業(株)による1,860平方m^2の埋立てが竣工する。(『住友100』)</p> <p>4. 1 追浜本町児童公園(2,411平方m^2)が開設される。(『市公園』)</p> <p>4. 1 湘南鷹取6丁目児童公園(3,102平方m^2)が開設される。(『市公園』)</p> <p>5. 1 市営追浜浄化センター(浦郷町5丁目)及び深浦ポンプ場が運転開始する。(『神新』『下水道概要』)</p> <p>6. - 住友重機械工業(株)、川間工場の橋梁・機械部門を追浜造船所に集約する。(『住友100』)</p> <p>6. - 追浜の歴史を探るの会(会長笹子隆司)、機関誌『追浜探訪』No1を発行する。(表紙日付)</p> <p>7. 4 湘南鷹取都市緑地公園(湘南鷹取6丁目、2,207平方m^2)が開設される。(『市公園』)</p> <p>7.10 追浜下水処理場の通水式が行われる(浦郷町5丁目)。(『下水道概要』)</p> <p>11.10 追浜駅前歩道橋が開通する(駅～サンビーチ間、完成は同年6月)。(『神新』)</p>

年 号	出 来 事
	11.29 日産自動車(株)追浜工場の流通基地と工機工場の完成式を挙げる。(『横経済史』)
昭和60 (1985)	<p>1. 4 横須賀市追浜文化センター(夏島町)が開館する。開館式は市立北部図書館とともに3月27日挙行。(『市報』)</p> <p>3. 1 住居表示により、浦郷町1丁目の一部を船越町8丁目に変更する。(『市報』)</p> <p>3.31 『横須賀市文化財総合調査報告書第5集一北部編』(横須賀市教育委員会)が刊行される。(右書奥付)</p> <p>4. 1 追浜管区各小学校の在籍児童数は、浦郷小885人、追浜小363人、夏島小631人、鷹取小1,171人という。(『教育資料』)</p> <p>4. 2 横須賀市立北部図書館(夏島町)が開館する。(『神新』)</p> <p>5. - 鷹取小学校、創立10周年記念誌を発行する。(『教育資料』)</p> <p>6. 8 海洋科学技術センターが6,566平方メートルの埋立工事を完成させ、竣工式を挙げる。(『海洋10』)</p> <p>10.26 追浜駅前第1街区市街地再開発ビル、サンビーチ追浜店が開店(キーテナントは(株)西友、(株)横須賀産業、店舗面積7,633平方メートル)。(『横経済史』)</p> <p>11. 1 (株)西友追浜店、営業を開始する(サンビーチ追浜)。(『神新』『工業30』)</p> <p>11. - 駅前「サンビーチ追浜」で「追浜いま・むかし写真展」(追浜の歴史を探るの会)が開かれる。(『神新』)</p> <p>この年、①追浜行政センター管内の国勢調査数、所帯数1万1,603、人口3万4,786人。(『国勢調査』)②この頃、郷の湯(追浜町2丁目)が廃業するという。(聞取調査)</p>
昭和61 (1986)	<p>3. - 『追浜の歴史年表』(土方健次郎編)が刊行される。(右書奥付)</p> <p>4. 1 夏島都市緑地公園(夏島町、9,330平方メートル)が開設される。(『市公園』)</p> <p>4. 1 追浜東町1丁目第3幼児公園(263平方メートル)が開設される。(『市公園』)</p> <p>4. 1 鷹取中の在籍生徒数667名(16学級)で、この年最多数となる。追浜中は1,069名。(『教育資料』)</p> <p>8. - 追浜地域文化振興懇話会が発足する。(『文化財団5』)</p>

年 号	出 来 事
昭和62 (1987)	<p>2.16 (株)軽部リネンサプライが設立される(軽部喜明、夏島町)。(『横経済史』)</p> <p>8. 1 「'87日産カップ第1回神奈川県トライアスロン選手権大会」が日産自動車(株)追浜工場内を主会場に開催される。(『神新』)</p> <p>8.20 追浜文化懇と追浜の歴史を探る会が『追浜の史跡探訪』(沢田雄也著)を発行する。(右書奥付)</p> <p>9. 3 海洋科学技術センター(夏島町)開発の深海無人探査機「ドルフィン3K」が初の潜航テストに成功する。(『海洋10』)</p>
昭和63 (1988)	<p>1.31 海洋科学技術センターで3,000メートル級深海無人探査機「ドルフィン3K」の完工式を挙げる。(『神新』)</p> <p>3.31 追浜公共職業安定所を廃止する(新設の横浜南公共職業安定所に統合)。(『神新』)</p> <p>6. 1 夏島の埋立地をめぐる横須賀市・横浜市の市境が、自治省告示98号をもって確定する。(『官報』)</p> <p>8.28 相川芳郎(追浜東町)が『御判行私考』を出版する。(左書奥付)</p> <p>9. 1 『横須賀こども風土記』上巻(上杉孝良著)が、横須賀市民文化財団から発刊される(追浜地区から中央・上町地区まで)。(左書奥付)</p> <p>10. 1 追浜ポンプ場(追浜本町)が完成し、稼働する。(『神新』)</p> <p>11. - 「クリオ湘南追浜サニークレスト」(追浜町1丁目・220戸)が竣工する。(聞取調査)</p>
平成元 (1989)	<p>3.31 「明治憲法起草地記念碑」(夏島町)が横須賀市の市民文化資産に指定される。(『市報』)</p> <p>7.17 横須賀信用金庫と鎌倉信用金庫が合併して、湘南信用金庫と改称、湘南信用金庫追浜支店となる(追浜本町1丁目)。(『神新』)</p> <p>8. 4 追浜公園軟式野球場で市民納涼のつどいが行われる。(『神新』)</p> <p>8.10 海洋科学技術センターの「深海6500」が水深6,527メートルの有人潜水世界新記録を樹立する。(『神新』)</p> <p>8.12 夏島町に市立北部体育会館が完成し、落成式を挙げる。建物面積延5,965.94平方メートル。(『神新』)</p> <p>9.27 夏島小学校の体育館で不審火があり、床など約20平方メートルを焼く。(『神新』)</p>